

公共政策大学院に通っている

聞き手・齋藤瑞生

小林彩葉

学生の多くは、以下のような質問を受けた経験があるのではないだろうか。「何を勉強しているの?」「何で大学院に通っているの?」と。最も直感的な回答は、「公務員になるために公共政策を学んでいます」であろう。しかしながら、半数近くを占める民間企業に就職する学生(アンケート企画参照)は何と答えるのだろうか。そもそも、公共政策とは一体どのような学問なのであろうか。実際のところ、本学の学生は何か特定の分野について研究するわけではなく、経済学、政治学や法学といった雑多なカリキュラムによって公共政策を学ぶことになる。本企画では、そういった公共政策が持つ「曖昧さ」を言語化して、本学で学ぶ意義を改めて捉え直すことを目的として、多様なバックグラウンドを持つ本学の教員2名と学生3名が集まってもらった。

齋藤 まず自己紹介からお願いします。

(白井) 1年生。白井夢月。法学部出身。政治学専攻。

(岸原) 2年生。岸原大樹。法学部出身。国際政治専攻。

(西田) 2年生。西田淳一。出身は大阪。大学卒業後は三井物産に就職。平成24年に公募で滋賀の区長、平成29年に大阪の商工労働部長を歴任。

(岩下) 日本銀行で33年勤務したのち、平成29年から京都大学公共政策大学院教授を務める。公共政策大学院での担当講義は、「金融政策」「フィンテック概論」「デジタルガバメント論」など。(待鳥) 研究者教員。専門分野は比較政治。比較政治学の理論的な枠組みから、アメリカや日本の事例を研究している。公共政

策大学院での担当講義は、「公共政策論A」と「現代アメリカ政治」。

齋藤 最初の質問は、どのように公共政策大学院を説明しているのかです。キーワードをお手元の画用紙に記入していただければと思います。

白井 よりよい公共政策とは何かというのを考える場だと思います。色んな社会課題があると思うんですけど、その課題を解決するために一番良い手段を考える際に、その課題一つをとってみれば良いのかもしれないけど、たとえばそこには人的な資源だったり、お金だっただけの限界があったり、その有限な資源をどう分配するのかというところも公共政策の一部だと思うんです。そういうのも全部ひっくるめて、より良い社会をつくるのに必要な政策は何なのかっていうのを考

えるところなのかなと思っています。

待鳥 公共政策大学院とは「政策の束」を学ぶところだと思っています。たとえば防衛政策、福祉政策、金融政策といったひとつの政策を深く勉強するというのは色んなところでできますし、それも大事です。それらがどう繋がっているのか、さらにそれぞれが違うことを目指してしまおうと社会にどんな問題が起こるのか、という相互連関を理解することが、公共政策大学院の大きな存在意義だと考えています。個々の政策は独立しておらず、他の政策分野の影響を当然受けること、しかもその「束」としての公共政策は見方によって全然違った議論になること。そういったことが理解できるような場所にしてほしいなと思います。



公共政策大学院 教授
岩下 直之

公共政策大学院 修士2年
岸原 大樹

公共政策大学院 修士1年
白井 夢月

齋藤 自身自身、公共政策大学院をちよつと説明していくと思つた場面があるんですが、みなさんの中に似たような経験をお持ちでしたら教えてください。学生の方でいらつしゃいますか？

岸原 就活を経験する中で、民間企業と国家公務員を受けて感じたのは、霞が関の人たちは公共政策大学院に対してかなり深い理解があつて、それは先輩方が霞が関で勤務しているからだと思ひます。逆に民間企業にはそういう人たちがいないので、公共政策大学院とは何かという前提を説明することに苦労した経験があります。たしかに公共政策というのが民間企業と行政でそれぞれ隔たりがないという考えがあるもの

の、民間企業の中では公共政策大学院という理解はまだまだ進んでいなくて、霞が関にとどまっている概念なのかなというのは自分が就活を経験して感じたところですよ。

齋藤 民間就活では、なぜ公共政策大学院に通つていいのかよく質問されましたか。

岸原 そうですね。もつというとなんであえて文系で大学院に行つているのかという問いが非常に多かつたと思つています。

白井 卑近な例で申し訳ないのですが、今住んでいるところはずつと長いこと住んでいるので、よく行く美容室の方に私の日々がなんとなく筒抜けになつていんですね。そうすると大学院へ行かれていますねという話になつて、何勉強するんですかと言われて、公共政策の勉強し

ていますという話になつたときに、公共政策って何ですかと言われて、私美容室でめっちゃ考えこんでしまつて、公共政策ってなんだっけなあと。その時は比較的若い方だったので、たとえば子どもができて保育園に入れようとしたときに、入れるの大変じゃないですかみたいな話を聞いて、そのために保育園を増やすとか保育士を増やすとか色々な手段があると思うんですけど、じゃあどこに国民からもらつた税金をあげるのかを決めるのが公共政策ですよという話をしたんですけど、果たしてこれで良かったんだろうかと髪の毛を切られながらしばらく自問自答してました。

小林 それでは次の質問で、公共政策学というのは分野横断的な学問だとは思いますが、分野横断的な学びをこの大学院ですることの意義をお伺いしたいと



思います。

西田 僕が大学に行っていた時はまだ公共政策とか、総合政策学部みたいなのはなかったんですね。だから中央大学では、法学部に入りました。だけど途中でなんか面白くないなど。もっと幅広く学びたい、要するに研究者に僕は向いてないな、あかん

などというときに、公共政策大学院とかあればたぶんその道に行ったかもしれないですね。ここでお世話になって感じるのは、学生さんはやっぱり国家公務員の一つの受験ツールとして使われているんじゃないかな。あるいは、そこを指すために時間をかけて学びつつ、そっちにいくという選択をしている人も多いのかな。あとはコンサルですね。僕も公共で2回生になっていろんな人に話を聞くと、コンサルか国家公務員で、やっぱり地方公務員を目指すのは少ない。それは当然なのかもしれないですけどね。僕なんかはもともと地方公務員面白いですよとかを学生さんに話しているんですけど、ちよつとやっぱり受験ツール化しているような印象は受けます。それは無理ないと思います。幅広く学ぶ、これは民間と行政なり経験してくると、学び

なおすものすごくわかるんですね。民でぶつかっていた問題、行でぶつかっていた問題。経験がない学生さんが公共政策にきて、課題を発掘するというのかなり難しいかもしれないですよ。だからある意味で色々なことの学びを深めて、総合力をつけて立ち向かっていくという意味で公共政策というのは意義があるんだろうなと思います。

岩下 分野横断的な学びをするのは、そうした方が有利で有用だからだと思います。今の学問は非常に分化していて、それぞれの専門分野を深く掘り下げることに特化しているんですね。ただ、実際に世の中で解決すべき問題に直面した時、それを解決するためにある分野のある知見だけで解決できるということは滅多にないので、基本的にはいろんな知見を組み合わせる必要があります。

これを学問的にやるというわけ学際研究という形になります。学際というのはきちんとした評価の体系がないので、学問としての完成度を測ることは難しいのですが、その分、ハイブリットにすることで強みが増す部分が確実にあります。

私が特に強いと思ったのは、理系と文系のハイブリットです。たとえば、電子署名法の議論を審議会でやるときにすごく有利になる。民事訴訟法の専門家の先生は、デジタル署名の原理的な中身を詳しくは知らないし、情報技術の先生はその法的効力についてはさほど詳しくはない。もちろんそれぞれの専門家は専門領域について深い理解を持っているのですが、やっぱり両方持っていることが非常に大事。それはどの分野にも言えることで、できる限り幅広い分野に深い知識を持つことが非常に有利で有効だと思います。

小林 世の中の解決すべき問題と
いうのは、総合的な知見を組
せてアプローチするというのが
普通で、一般的な大学院は専門
分野を深めていくところである
一方、公共政策大学院はそうし
た総合的な知見を身に着け、強
みとして発揮できる場所なんだ
と思いました。特に、先生がおつ
しゃったような文理融合的な考
え方というのはとても面白いな
と思いました。

小林 質問はより抽象的な話で、
公共政策大学院で何を身につけ
て卒業するのが理想なのかをお
伺いしたいと思います。

岸原 僕は、最初は自分の行きた
いところから内定をもらうための
力をつけられればいいと思って
いたんですが、この二年間過ご
してみても、それだけではなく、
自分の社会で実現したいことの

答えは一つじゃないというのを
受け入れること、その受け皿を
身につけなきゃいけないと思う
ようになりました。答えが一つ
じゃないどころか、答えがない
ものもあります。それが当たり
前っていうのを身につけなきゃ
いけないですね。学部ときは
そういう問題意識はなかったん
ですが、公共政策大学院では価
値観や考えの違いを受け入れて、
それを組み合わせる形にするこ
とを身につけて、社会に出てい
きたいと思っています。

小林 ありがとうございます。大
学院で学ばれている間に、試行
錯誤され、考え方が変わっていっ
たということがとても伝わって
きました。社会人になってから
も、その考えを大事にしてほし
いなと思います。

西田 私自身は一言で言ったらマ
ネジメント力の再構築、その意

味で公共政策大学院の色々な科
目を選択することでその力が身
につくだろうと思っています。
先ほど皆さんもおっしゃって
いましたが、一つの問題って一
つで解決しないんです。経済的な
問題や産業的な問題等が複式的
に絡んでくる。色んな学際的な
ものを超えて、いかにつないで
いくかというマネジメント力を
身につけたいです。行政、民間
もそうですけど、administration
からmanagementが求め
られている。公共政策は公共マ
ネジメントって、そうなるって経
済学、経営学との関係性という
別の問題も抱えることになるん
ですが……。でも、やっぱりマネ
ジメント力があつたら、どこに
行っても活躍できると思ってい
ます。

小林 近年、社会課題も複雑化し
ていくなかで、色んな業界の間
題をどうつなげていくかという、

マネジメント力が求められてい
る時代だからこそ、その力をつ
けていくのが公共政策大学院で
ないかということは私も思いま
す。ありがとうございます。

小林 それでは次で最後の質問に
なります。本日の座談会を通し
て、公共政策大学院の存在意義



についてどのように思われましたか。初めの質問と同様に、お手元の画用紙に書いて一斉にお答え下さい。

岩下 「政策と学問の架け橋」という言葉を使いました。私自身、学生時代に金融を勉強して、実務に入ってから政策もやっていたので、どちらも知っていたつもりだったんです。でも、「金融政策」という科目を担当していて感じたのは、この二つを融合させて考える授業というのはあまりなかったなど。金融政策の分野では、学問があつて政策があつて、その政策が発現したのを見てそこからまた学問が生まれる、というのが現実起こっているわけですよ。そういうのを意識して学んでいかないとダメなんです。EBPM（エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング）というのが流行っていますが、エビデンス

をちよつと入れて政策の評価をすればよいという訳ではなくて、もう少し学問は深いんですよ。そういう部分と政策を上手につなぐことができ初めて、よい政策になるんじゃないかと思えます。

待鳥 「多元性とバランス感覚の涵養」にしました。公共政策には色々な政策領域とその組み合わせがあつて、色々な考え方があります。それは当たり前のことなのですが、なかなか教えられていないし、身につけるのも難しい。公共政策には、これしかないという意味の「正解」はありません。それぞれの政策領域には正解があるけれど、そこでの正解は、違う領域では正解ではないことを学ぶのが、公共政策大学院なんです。でも同時に、複数ある正解のなかで一番優先すべきことは決めなければいけない。そこで大事なのが

バランス感覚なんです。バランス重視という現状維持になりやすいのですが、複数の原理の間のバランスを考えることは、イノベーションにもつながるはずなんです。

その意味で公共政策大学院は、突き抜けた人材を作る場所じゃないと思うんです。突き抜ける優秀と考えられがちですが、突き抜けるということは、自分の考え以外を退けるとセットなんです。基本的に突き抜ける人材を育てるのが大学なんです。公共政策大学院は突き抜ける人材を育成しない、突き抜けないがゆえの優秀さを追求するのが大切で、大学の中にそういう存在はあつた方がいいと思つています。

小林 ありがとうございます。総合的に判断を下す中で多元性やバランス感覚が求められるので、その能力を身につけるのが

公共政策大学院ではないかということですね。それでは、今の議論に関して思ったことがある方がいればどなたかお願いします。

西田 一点だけお願いします。よりよい国家づくりの前提としてグローバル化ですよ、やっぱり10年20年したら技術の進歩で変わるでしょうけど、語学も少なくとも英語がマストになつてくるのかなと思います。先生も英語でやる授業が出てきたりすれば、もっと自信もつていけるようになるだろうし、留学生もいるじゃないですか、彼らは英語ほんとにうまいです。今は行政も英語から離れているからね、特に小行政はね、だからどんどんローカル化しちゃうからね。もう少し英語教育が公共政策大学院にあつたらさらにグレイドアップできるんじゃないかと思ひます。

小林 今の公共政策大学院にプラ
スする形でもっと強化できるこ
ととしては英語も必要で、それ
が整っていれば学生たちもグロ
バル人材として世の中に出てい
けるんじゃないかということだ
すね。私もそれを留学生とお話
しする中で感じていたので、今
後公共政策大学院がそういった
形になっていければと思います。

齋藤 これまであまりやったこと
のない試みでしたが、皆さんい
かがでしたか。

白井 皆さんの考え方や、普段教



えていただいている先生方の視
点も分かって面白かったです。

岸原 来年から行政のほうにい
ますけど、民間と関わる機会
たくさんあると思うので、そこ
でこそ今日の話で得たことを発
揮できると思うので、来年へ
一つのモチベーションになった
と思います。ありがとうございます
ました。

西田 座談会、僕は非常にいいな
と思います。読んでいただいで
感謝しています。より多くの生
徒がより多くの教授とこうい
う場で接する機会を設けていた
ければ、もっと公共政策大学院
が活性化するんじゃないかと思
います。そちらはしんどいでし
ょうけど、一か月に一回くらい開
くような形でもいいと、もっと
やってもいい素晴らしい場だと
思います。ありがとうございます
ました。

岩下 私は講義では一方向で伝え
るというよりでもできるだけ双方
向を心掛けてますし、CSとい
う議論の場もあるのですが、ど
うしてもその時のテーマに関連
する話題に限られてしまいます。
幅広いテーマで話せると議論も
広がるし、みんなが何に関心
を持っているか私も知りたいん
です。公共空間の座談会とい
うのは今回が初めてだけど、実
はこういう形で学生と教師が語
合うというのは、コロナの前は
授業後の食事会とかでやってた
んですよね。コロナでそれが
きなくなっちゃったのは本当に
残念です。食べたり飲んだりす
るのが本質ではなくて、いろん
な話をラフに交わす機会がまた
できたらいいなと思いました。
ありがとうございます。

待鳥 私の印象としては、思った
よりもみんな似たことを考えて

いると感じました。教える方も
学ぶ方も、公共政策には掘みど
ころがなく、困惑して過ごして
いるのかと思つていたんですが、
意外にそうではなかったですね。
皆さん違うことを考えていても
だんだん収斂していつて、一つ
に議論がまとまったなと思いま
す。京大公共政策大学院は、そ
れなりにまとまったものを提供
できているのかもしれないね。
カリキュラムを組んで、教えて
いる側からすると、もっと色々
こうしたいなあしたいと考える
こともあるんです。言われてい
る弱点は、自分たちでもだいた
い気付いていますし。だけど、
その中でやっていることがそれ
なりに学生さんに伝わっている
のなら嬉しいですね。パンデミッ
クはまだ収まりませんが、こ
ういう場はもっとあつていいと、
私も思います。ありがとうございます